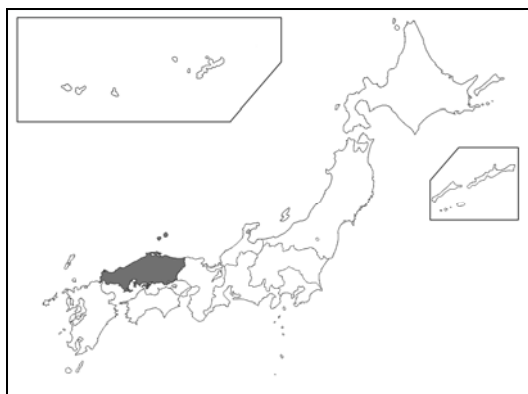


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さがみられる。

- ・ 鋳工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

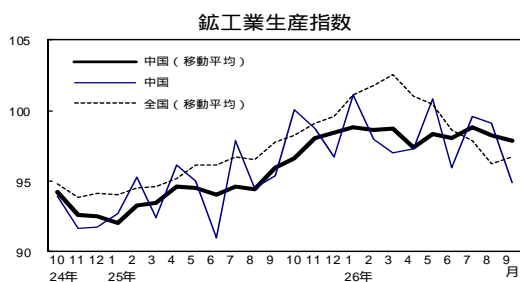
前回調査からの主要変更点

| | 前回(平成26年8月) | 今回(平成26年11月) |
|------|--|--------------------------------|
| 景況判断 | 緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある | 緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さがみられる |
| 個人消費 | 消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる | 持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる |
| 雇用情勢 | 着実に改善 | 改善の動きに一服感 |

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

7～9月期には、輸送機械は、自動車は海外向けは引き続き堅調であるが、国内向けで駆け込み需要の反動が続き減少した。化学は、定期修理の影響もあり減少した。はん用・生産用・業務用機械は、生産設備等の生産が堅調で増加した。鉄鋼は、自動車や建材向け等の生産は堅調であるが、海外向けに弱さがみられ減少した。電子部品・デバイス、海外向けのモバイル機器の部品が引き続き堅調で高水準の生産。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の大線は後方3か月移動平均。

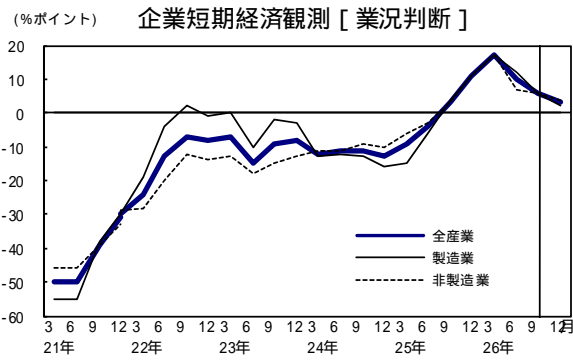
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | | | |
|---------------|--------------|-----------|-----------|------|-----|------|
| | | 4～6 月期 | 7～9 月期 | 7月 | 8月 | 9月 |
| 輸送機械 | 23.5 | 0.6 | 5.0 | 5.4 | 1.3 | 2.0 |
| 化学 | 16.4 | 0.7 | 1.9 | 4.8 | 6.9 | 16.9 |
| はん用・生産用・業務用機械 | 11.2 | 3.5 | 5.3 | 17.5 | 4.0 | 25.4 |
| 鉄鋼 | 7.7 | 2.0 | 3.8 | 0.1 | 0.9 | 3.5 |
| 電子部品・デバイス | 7.1 | 11.2 | 4.2 | 6.3 | 0.5 | 2.2 |
| 鋳工業 | 100.0 | 0.7 | 0.1 | 3.7 | 0.5 | 4.2 |

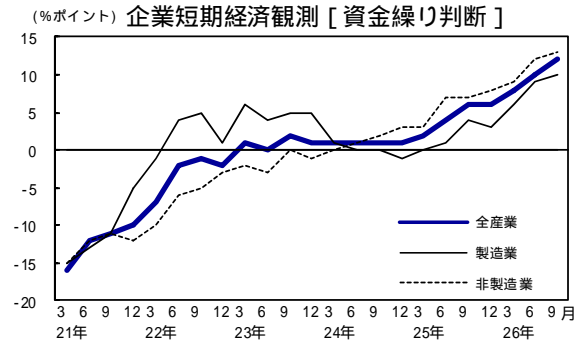
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

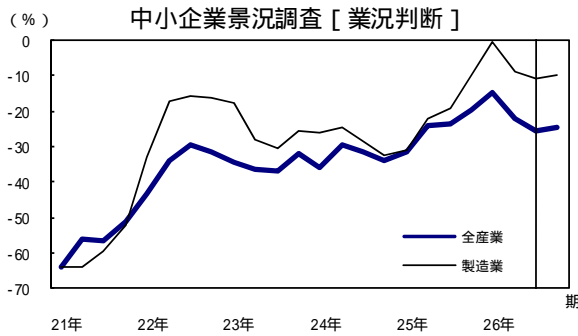
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

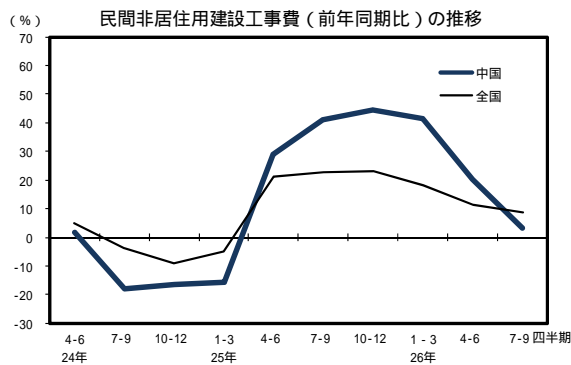


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「パソコンなど関連機器販売は伸び悩み状況にある。通信設備更改については先送りされている感がある(通信業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

| | 25年度実績 | 26年度計画 |
|------|--------|-----------|
| 全産業 | 3.8 | 9.0(1.5) |
| 製造業 | 6.4 | 24.0(2.1) |
| 非製造業 | 19.3 | 9.0(0.5) |

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.8%減、8月は同2.2%増、9月は同0.1%減となった。

大型小売店販売額

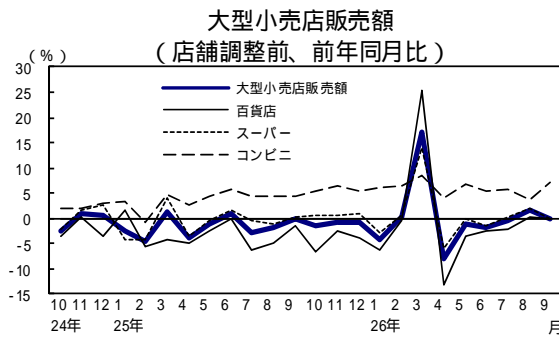
百貨店は、7月は、紳士服の販売は堅調であったものの、婦人服や飲食料品の販売が低調で、全体として前年を下回った。8月は、天候不順の影響で夏物衣料の販売が低調に推移したものの、時計や化粧品の販売に良い動きがみられ、5か月ぶりに前年を上回った。9月は、時計、化粧品や寝具類の販売が好調であったが、婦人服などの秋物商品や身の回り品の販売が低調で、全体として前年を下回った。

スーパーは、夏物衣料の販売は低調であったが、生鮮食品の価格上昇で飲食料品の売上が伸びたことなどから、全体として前年同期を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、41.7となり前月より3.1ポイント低下した。

「客との会話に明るい話題が出ない。一部の客は景気が良くなったと感じているかもしれないが、大多数の客は良くなったと実感していない(一般レストラン)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

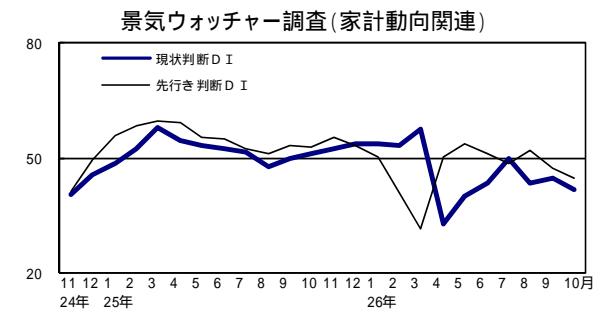
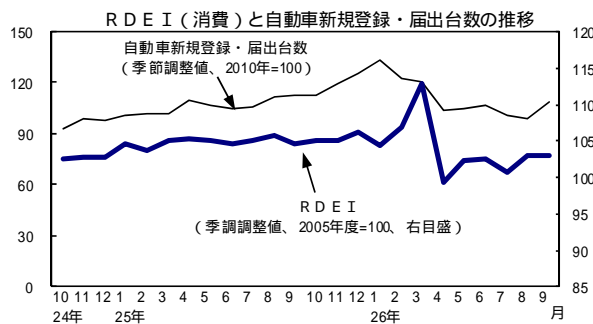


| | 26年7-9月 | 26年7月 | 8月 | 9月 |
|-------------|---------|-------|------|------|
| RDEI (消費*1) | 0.9 | 1.8 | 2.2 | 0.1 |
| 大型小売店(*2) | 0.4 | 0.4 | 1.7 | 0.0 |
| 百貨店(*2) | 0.7 | 2.0 | 0.4 | 0.1 |
| スーパー(*2) | 0.8 | 0.3 | 2.1 | 0.1 |
| コンビニ(*2) | 5.4 | 5.7 | 3.7 | 7.0 |
| 乗用車(*3) | 6.1 | 5.2 | 12.2 | 2.5 |
| (季節調整値)(*3) | 2.2 | 5.8 | 1.6 | 10.4 |

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

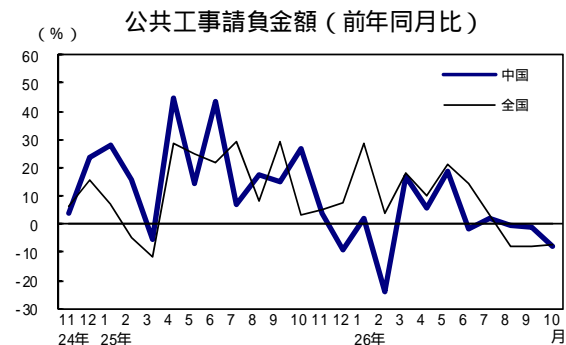
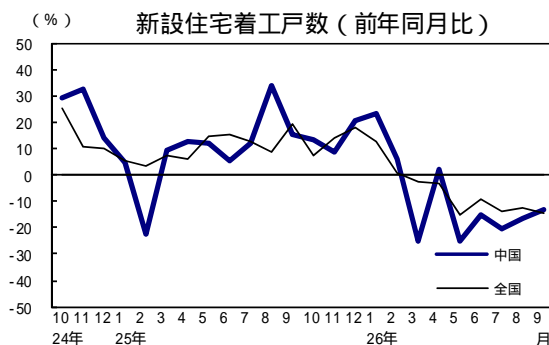
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を上回っている。

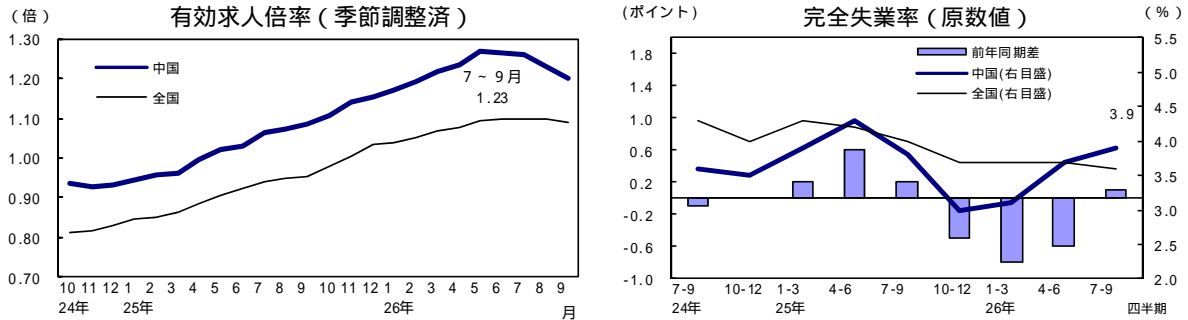


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

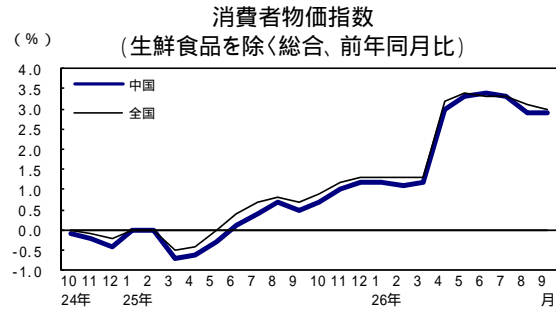
「月別の有効求人倍率は15か月連続で1倍を超えているが、新規求人数が3か月前に比べて約1割減少しており、景気が上向いているとは思えない(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|-----------|----------|------|------|--------|
| | 25年10-12月 | 26年1-3月期 | 4-6月 | 7-9月 | 26年10月 |
| 倒産件数 | 111 | 122 | 110 | 108 | 48 |
| (前年比) | 15.9 | 3.9 | 12.7 | 10.7 | 14.3 |
| 負債総額 | 206 | 213 | 163 | 170 | 47 |
| (前年比) | 11.9 | 19.6 | 77.3 | 4.1 | 23.7 |



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・消費税増税から半年になるが、消費を控えたり、より安い店を探す客が増え続けている(乗用車販売店)

<先行き>

・価格改定ができない一方、原材料価格の上昇はさらに加速しており、このままでは減益になる。価格改定ができなければより一層厳しい状況が続く(食料品製造業)

景気ウォッチャー調査
(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

